

大阪市立十三小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査においては、国語・算数とも、全国平均を上回り、学習理解度診断における通過率も、全学年 70%以上を達成している。しかし、上位層と下位層に開きがあり、基礎的・基本的な内容の理解が十分でない児童がいる。家庭での読書や復習をする学習習慣が定着せず、困難をきわめている児童も少なくない。また、自尊感情が低く、自分のよさを見出せなかったり、自信をもてなかったりする児童もいる。話し合い活動や発表などを取り入れた児童主体の授業形態を重視し、習熟度別少人数指導、個別指導等で「楽しい」「わかった」「できた」を実感できる取り組みを強化していく。
- 夜遅くまで起きている児童が約 17%あり、睡眠不足、偏りのある食生活など、健康面で課題がある。また、運動能力・運動習慣調査では、全国平均を超える結果が出ているが、持久力や柔軟性に欠けることが明確になった。生活習慣を改善し、日常的に運動する習慣を身につけさせていくようにする。
- 学級での活動、なかよし班活動、異学年交流などを通して、相互理解の機会を多くとってきたので、温かい人間関係が築けるようになってきた。今後も、日々の学校生活や道徳・学級活動の授業などを通して、自分の気持ちを相手に伝え、相手の立場も理解できる児童の育成を目指していく。
- 家庭・地域の連携の推進は、年間の取り組みを当初に発信することで共通理解が図られ、目標の 3 倍以上の参加を得ることができた。しかし、学校からの情報発信に関心を持ちにくい家庭があり、情報の内容を工夫したり、ホームページの活用を啓発したりして、取り組み内容が保護者・地域の方々に共通理解できるようにする。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を 10%以内に作る。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を 80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持・増進】

- 平成 28 年度、学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を 90%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、「食育」に関する指導力の向上を目指し、年 6 回以上の公開授業を実施する。平成 28 年度末の学校アンケートにおいて「食について楽しく学ぶことができた」という項目について「はい」と答える児童の割合を 90%以上にする。
(マネジメント改革関連) (カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン（持久力）」の平均記録を全国平均以上に作る。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成２８年度、学校アンケートにおける「自分のことが好きですか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を８０％以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成２８年度、学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を８０％以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成２８年度、学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を９０％以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 学校・地域の連携】

- 平成２８年度、学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間４００人以上にする。 (ガバナンス改革関連)
- 平成２８年度、学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を９０％以上にする。
(保護者アンケートにより検証する) (ガバナンス改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成26年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を20%以内にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を70%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持・増進】

- ① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 食に関しての知識を広め、食への興味・関心を高めるために、全学年で「食育」に関する授業研究を実施し、学校アンケートにおいて「食について楽しく学ぶことができた」と答える児童の割合を80%以上にする。
(平成26年度は、区教員研究発表会。大阪市小学校教員発表会)
(平成27年度は、食育の授業参観、講演会を実施)
(カリキュラム改革関連)
- ③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン(持久力)」の平均記録において、全国平均を上回る児童の割合を75%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 学校アンケートにおける「自分のことが好きですか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 学校・地域の連携】

- ① 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間300人以上にする。
(ガバナンス改革関連)
- ② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を80%以上にする。
(保護者アンケートにより検証する)
(ガバナンス改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

視点

<学校運営全体を通じた成果>

- ・ 基礎・基本の定着を図るために、習熟度別少人数指導の取り組みを充実させ、繰り返し指導、個別指導、グループ指導、ICTの活用、学習プリントの活用、家庭での復習など、継続実施してきた結果、目標を上回り、学力の向上がみられた。
- ・ 研究授業や日々の指導、各委員会活動などにより、食に関する知識・調理技術を高め、日々の生活での実践力を養うことができ、目標を大きく上回った。
- ・ 生活目標や健康週間（きら・ピカウィーク）、保健指導、学級指導で「歯みがきの習慣化」を図り、目標を大きく上回った。
- ・ 年間計画に基づいて道徳教育・人権教育・特別支援教育を実践することにより、自尊感情を高めることができ、相手の立場や気持ちを理解して行動する力が育成され、目標を上回ることができた。
- ・ 基本的な生活習慣の定着が図られ、学校のきまりを守る児童が増え、目標を上回った。
- ・ 学校だより、学校ホームページ、各学校行事参加案内状などを通して、多くの情報を発信してきたので、学校の取組を共有することができ、参加者、協力者の目標数値を大幅に上回ることができた。

<項目や取り組みの重点の設定>

- ・ 全国体力・運動能力調査における「20mシャトルラン（持久力）」のみに重点をおいた目標を設定してきたが、どの調査項目においても低下傾向にあるので、次年度は「取り組みの重点の設定」を変更する。

<目標を達成できなかった項目の課題>

- ・ 全国体力・運動能力調査における「20mシャトルラン（持久力）」において、全国平均を上回ることができなかった。日常的に運動に親しめる取り組みを増やし、総合的な体力・運動能力を身につけるための時間を工夫して取り入れていく。

<次年度に向けた取り組み>

- ・ 学力向上委員会を中心に全教職員が、学力向上にむけた課題を共有し実践する体制を確立する。
- ・ 生活習慣の確立・家庭での学習習慣の定着などを図る。
- ・ ICT教育を推進し、次年度導入予定の「タブレット」の運用の仕方を共通理解するための研修を行う。
- ・ 「歯みがきの習慣化」に向け、給食を食べるに時間がかかる児童の歯みがきの時間を確保する工夫を行う。
- ・ 日常的に運動に親しめる取り組みを増やし、総合的な体力・運動能力を身につけるための時間を工夫して取り入れていく。
- ・ ○○名人を様々な分野で設定し、全員の児童が活躍できる場をつくり自尊感情を高めていく。
- ・ 縦割り班活動を今後も継続し、他学年との交流の機会を増やしていく。
- ・ 「わたしたちの道徳」の活用の仕方の研修を行い、道徳の全ての項目を指導するよう見直しを図る。
- ・ 学校のきまりをまもるためのユニバーサルデザインを取り入れた環境整備を行う。
- ・ 家庭・地域の参加を増やすために詳しい活動内容を発信し、ホームページや学校だよりの感想を求め、さらなる改善をすることで情報発信の質を高めていく。

大阪市立十三小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ① 平成 26 年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を 20%以内に作る。 国 A…3%、国 B…10%、算 A…1%、算 B…3% （4.25%）（カリキュラム改革関連） ② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を 70%以上にする。 （診断テスト…78%、単元テスト…81%）（カリキュラム改革関連） ③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を 75%以上にする。 （ 90 ）% （カリキュラム改革関連）	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 基礎・基本の定着】 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、3～6年生の国語と算数における習熟度別指導を充実させる。 （カリキュラム改革関連）	A
指標 習熟度別指導を年間 540 時間以上実施する。 （ 820 ）時間	
取組内容②【区分 言語力や論理的思考能力の育成】 各教科や領域指導において、コミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を行う。 （カリキュラム改革関連）	B
指標 各教科・領域指導において、ペア発表やグループ発表・全体発表などコミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を 1 日に 1 回以上行う。 1 日（ 1～2 ）回	
取組内容③【区分 学習習慣の確立】 全学年で毎日課題を提供し、学校の復習をさせる。 （カリキュラム改革関連）	A
指標 課題の提出率を 75%以上にする。 （ 90 ）%	
取組内容④【区分 ICTを活用した教育の推進】 各教科や領域指導に ICTを活用し、授業を行う。 （グローバル化改革関連）	A
指標 各教科や領域指導で ICTを活用した授業を週 1 回以上行う。週平均 （ 2.8 ）回	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【視点 学力の向上】 年度目標の達成状況 <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査や、学習理解度診断において、目標を上回って達成することができた。 ほとんどの児童が学校の復習をしっかり行っており、目標を大きく上回ることができた。
取組内容①【区分 基礎・基本の定着】の進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> 習熟度指導により個別指導が行き届きやすくなったり、発表の機会が増えたりしたことで、児童の意欲が高まった。また、本人の理解に合わせたスピードで学習を進めるため、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。 学級担任と習熟度指導担当が綿密な打合せを行うことで、計画通りの学習を進めることができた。 授業の始めに、四則計算の復習プリントを取り入れるなどして、基礎基本の定着を図った。（東書 web の活用など）

取組内容②【区分 言語力や論理的思考能力の育成】の進捗状況

- ・ 各教科、領域指導においてペア・グループ・全体発表を積極的に導入し、コミュニケーションを図る言語活動を行うことができた。そのためコミュニケーションの図り方が身につき、すすんで意見を発表するようになった。

取組内容③【区分 学習習慣の確立】の進捗状況

- ・ 復習を中心に、漢字練習・計算練習・音読などの課題を毎日提供してきた。また、日記やリコーダー練習、読書、理科や社会科の学習プリント、学力学習状況調査に向けての課題等も出すようにしてきた。
- ・ 提出率は、90%を超えており、家庭学習の習慣化がほぼ図られた。

取組内容④【区分 ICTを活用した教育の推進】の進捗状況

- ・ プレゼンテーションソフトを使った映像を学習の導入部分で使用したり、インターネットを活用し調べ学習を行ったりしたことで、児童の学習意欲が高まった。
- ・ 拡大資料や電子黒板、パソコン、デジタル教科書の活用、NHK配信の教育ビデオ等を活用し、視覚的に訴える教材で理解を深めた。

次年度への改善点

【視点 学力の向上】の改善点

- ・ 学力向上委員会を中心に全教職員が学力向上に向けた課題を共有し実践する体制を確立する。
- ・ 生活習慣の確立、家庭での学習環境の整備等、これからも家庭への啓発を続けていくようにする。
- ・ 下位層の児童の基礎・基本の定着を図る。

取組内容①【区分 基礎・基本の定着】の改善点

- ・ 「できる・わかる」をめざした指導法の工夫を行う。
(国語)「読みの観点」を習得させ、教材文を読み解く観点を持たせるようにする。
(算数)授業時間内に教科書の練習問題や楽算問題などを練習する時間の確保及び指導の工夫を行う。
- ・ さらに習熟度別学習が効果的に実施できるように、習熟度コーディネーターとの連携を深め、取組を進めていく。
- ・ 基礎的・基本的な内容の定着を図るための習熟度別指導法の研究・研修を行う。

取組内容②【区分 言語力や論理的思考能力の育成】の改善点

- ・ 声を出す習慣づくり、日本語力の基礎を育成するために、「暗唱詩文集」の活用を更に進める。
- ・ 自分の考えを簡潔・明瞭に発表できるように、「話型」を共通理解し、活用する。
- ・ 教科の学習の場だけでなく、学校生活全体に言語活動を取り入れた交流ができるよう工夫する。
- ・ 学年に応じた「話し合いの進め方」マニュアルを作成し、話し合いができる集団作りを目指す。
- ・ 発表の聴き方についても、観点を示して指導していく。

取組内容③【区分 学習習慣の確立】の改善点

- ・ 家庭学習の習慣が定着しづらい児童への指導・支援を継続して行っていく。
- ・ 自主学習や読書の大切さを、児童・保護者へ呼びかけていく。また、自主学習の方法を提示したり本の紹介をしたりして、自ら考えて学習する力をつけていけるよう学校全体で発達段階に応じて取り組んでいく。

取組内容④【区分 ICTを活用した教育の推進】の改善点

- ・ ICT教育を推進するため、先進校の取組を紹介しあう研修を行う。
- ・ 来年度導入予定のタブレット端末の操作や運用の仕方を共通理解し、さらなるICT教育の推進をはかる。

大阪市立十三小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持・増進】</p> <p>① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を 75%以上にする。（ 91 ）%（カリキュラム改革関連）</p> <p>② 食に関しての知識を広め、食への興味・関心を高めるために全学年で「食育」に関する授業研究を実施し、学校アンケートで「食を楽しく学ぶことができた」と答える児童を 80%以上にする。（ 96 ）%（カリキュラム改革関連） （平成 26 年度は、区教員研究発表会。大阪市小学校教員発表会） （平成 27 年度は、食育の授業参観、講演会を実施）</p> <p>③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン（持久力）」の平均記録において、全国平均を上回る児童の割合を 75%以上にする。（ 42 ）%（カリキュラム改革関連）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>生活目標や健康週間、保健指導や学級指導等を計画・実施し、「給食後のはみがき」の習慣を身につけさせる。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 健康週間を学期に 1 回設定し、学期ごとに「給食後のはみがき」の達成状況をグラフ化する。（ A ）</p>	A
<p>取組内容②【区分 食育】</p> <p>授業研究や学校保健委員会・給食指導・栄養指導・給食委員会による活動などにより「食育」に関する取組を行い、食の知識を広め、食への興味・関心を高める。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 ① 給食時間に、給食カレンダー・献立表を活用した指導を毎日行う。（ A ） ② 給食委員会で、年 2 回「食育」に関する取組の発表をする。（ A ） ③ 食育教材となる栽培活動を計画し、全学年が野菜作りを行う。（ A ）</p>	A
<p>取組内容③【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】</p> <p>今日的な課題である「食育」の研究や研修を通して、児童に食に関する知識と食を選択する力を習得させる。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 全学級が「食育」に関する授業研究を年 1 回以上実施する。（ 10 回実施）</p>	A
<p>取組内容④【区分 体育的活動の充実】</p> <p>外遊びやなわとび運動を推進し、体力向上への意識を高める。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 ① 学期に 1 回「なわとびチャレンジ週間」を実施し、年間を通してなわとび運動に取り組ませる。（ A ） ② 運動場が使える時は、1 日 3 回以上、外遊びに取り組ませる。（ B ）</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【視点 健康・体力の保持・増進】年度目標の達成状況</p> <p>① 生活目標や健康週間、きら・ピカウィーク、保健指導等を計画・実施したことで、児童の歯磨きに対する意識は高まってきている。</p>	

- ② 全学年において「食」に関する授業研究を実施した。研究を進めていく中で児童は多くの知識を身につけ、栽培活動から調理活動へつなぐこともできたことで、児童の「食」への興味・関心は高まってきた。
- ③ シャトルランについては目標の数値を超えられなかったが、縄跳びを中心とした体力づくりに取り組んできたことで児童の体力づくりへの関心は高まった。

取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】の進捗状況

- ・ 生活目標や健康週間、保健指導や学級指導を定期的実施し、給食後の歯磨きに全校で取り組んでいるので、給食後の歯磨きが習慣化してきた。また「きら・ピカウィーク」を行事予定に載せたことで忘れずに取り組むことができ、掲示や放送で日々の目標を明らかにすることで自分の歯にあった磨き方を意識できる児童が増えてきた。
- ・ グラフ化したことで意識も高まり、指導に活かすことができた。

取組内容②【区分 食育】の進捗状況

- ① 給食時間に、給食委員会が給食カレンダーを読み上げたり、毎回食に関する三択クイズを出したりしてきた。学級でも、給食カレンダーや献立表を活用して、日々の給食指導や食に関する指導にあたってきた。その積み重ねで、児童の食への興味・関心が高まり知識も広まった。また、「給食タイマー」や「十三五か条の心得（ザ・給食編）」を活用することで、マナーについての意識も高めることができた。
- ② 食育月間と学校給食週間に委員会発表を行い、楽しくかつ真剣に給食についての知識を広め合うことができた。
- ③ 全学年が二期に渡り野菜作りに取り組み、栽培活動で様々な発見をしたり、収穫を喜んだりできた。また、調理活動へとつなげたことで感動と共に野菜のおいしさを知ることができた。

取組内容③【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】の進捗状況

- ・ 「食育」の研究と研修を計画通りに実施した。全学級が「食育」に関する授業研究に取組み、研究を深めることができた。さらに、総合研究発表会の公開授業に向け、取り組みを進めた。
- ・ 研究授業では、毎回、講師先生を招き、授業の検証を行ったり、講義を受けたりしてきた。教職員の知識が深まり、指導に生かすことで、児童に「食」の関心を高め、知識と食を選択する力をつけさせることができた。

取組内容④【区分 体育的活動の充実】の進捗状況

- ① 学期に1回「なわとびチャレンジ週間」の実施ができた。また、「なわとびの日」や「なわとび大会」を催し、なわとび運動に取り組ませることで体力向上への意識を高めた。
- ② 集会委員会が15分休みに遊びを企画したり、各学級で「みんな遊び」の時間を設定したりすることで、それに参加するために運動場に出た児童がたくさん見られた。また、フープの日やなわとびの日には楽しんで体を動かしていた。

次年度への改善点

【視点 健康・体力の保持・増進】の改善点

- ① 食べるのが遅い、好き嫌いがあるなどの理由で給食を食べるのに時間がかかる児童の歯磨きの時間の確保に引き続き取り組む。
- ③ 今後も持久力をつけていくための運動に親しんでいき、日常的に取り組む方策を考えていく。スポーツテストについては、毎年取り組んで記録を伸ばそうと意欲を高めることも必要と考え、実施時期や各学年の実施種目の見直しを図る。
 - ・ 定期的な縄跳びの取り組みを実施する。
 - ・ スポーツテストの実施時期を5月から6月に変更する。
 - ・ 4年生においてもシャトルランを実施種目に入れる。

取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】の改善点

- ・ 食べるのが遅い児童については歯磨きができていないこともあるので、自分の食べることのできる量を調節するよう指導したり給食を食べる最終時刻を徹底したりするなど、歯磨きタイムを確保するようしていく。きら・ピカウィークの期間は、特に給食タイマーを意識して給食時間内に食べ終わるよう指導し、完食できなかった場合でも午後１時１５分には食器を片づけ、歯磨きの時間を確保する。
- ・ 健康チェックカードの項目に「曜日ごとの目標が達成できたか」の項目を入れる。

取組内容②【区分 食育】の改善点

- ・ 給食時間内に食べ終われることを目標にした取組をさらに検討していく。
- ・ 来年度の栽培計画の立案を今年度中に行い、次年度すぐに取り組めるようにしておく。

取組内容③【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】の改善点

- ・ 今年度の研究を次年度の研究以降も活かせるように、指導計画に位置づけ、「食」に関する授業を行うことで、食への知識、興味・関心を高めていく。
- ・ ２年間の研究で作成した指導資料等を整理し、保管していく。

取組内容④【区分 体育的活動の充実】の改善点

- ① なわとびに日常的に取り組める方法を考えていく。
 - ・ 日頃の成果を認め合える機会を増やすために、なわとび大会を２学期と３学期に実施する。
 - ・ 第一水曜日を体育朝会として位置づけ、運動に取り組む。
- ② 運動委員会が学期に１回、運動大会（サッカー、リレー等）を企画し、遊びを通して体力向上を図る。

大阪市立十三小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 学校アンケートにおける「自分のことが好きですか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。 (81) % (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。(85) % (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。 (87) % (カリキュラム改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>自尊感情を高めるとともに、互いを認め合う態度を育てることができるよう、年間計画に基づいて人権教育を実施する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 ① 年間計画を策定し、年間計画に基づいて人権教育を実施する。(B)</p> <p>② 月1回児童に関する研修会（児童理解研修会・特別支援教育全体会等）を実施し、共通理解を図る。(A)</p> <p>③ 月1回以上、なかよし班活動や児童集会などの異学年交流を図り、互いに理解し学び合う機会を設定する。(A)</p>	A
<p>取組内容②【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、それらに基づく指導を実施するとともに、特別支援を要する児童と周りの児童がともに活動・交流する機会を増やす取組を実施する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 ① 特別支援を要する児童と周りの児童が、ともに活動・交流しながら理解し学び合う機会を毎月実施する。(A)</p> <p>② 保護者や医療機関、こども相談センター等との連携を月1回以上実施する。(A)</p>	A
<p>取組内容③【区分 道徳教育の推進】</p> <p>道徳の時間を要として、各教科・領域で話し合いやグループ活動等で、相互理解・共感を広げる取組を行うことにより、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 ① 年間指導計画に基づいて学習指導要領に示されている全ての項目を指導する。(B)</p> <p>② 「親切・思いやり」の項目に関する指導を、全学年が年1回授業参観で実施する。(B)</p> <p>③ 年2回「親切・思いやり」週間を実施し、「気持ちカード」を作成してふりかえりを行う。(A)</p>	B
<p>取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】</p> <p>学校のきまりを守ることにについて生活目標を設定し、日常的に繰り返し指導する。(カリキュラム改革関連)</p>	A

指標	① 毎月、生活目標についてアンケートを実施し、グラフ化する。(A)	
	② 月目標や週目標・学校行事・学級指導・教科・領域での指導などあらゆる機会を通し、日常的に学校のきまりを守ることの意義や重要性を指導する。(B)	
取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】	「安全（防犯・防災）マニュアル」を更に見直すとともに、家庭・地域参加型の防犯・防災訓練を実施する。(カリキュラム改革関連)	A
指標	① 防災や防犯など、さまざまな場面を想定した避難訓練を年間3回実施する。(A) ② 防犯教室・交通安全指導を、警察署と連携して、それぞれ年1回実施する。(A)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【視点 道徳心・社会性の育成】年度目標の達成状況		
① 目標数値を大きく上回り、自尊感情の高まりがみられた。各学年の発達に応じた人権学習や道徳教育を通し、自分のことを大切にする児童が増えた。		
② 目標数値を大きく上回り友達に優しく・親切にしていると感じている児童が多い。学級内の友達はもちろん、なかよし班活動や隣接学年との交流で異学年の友達と接する機会も多く持ってきた。その結果、いろいろな友達にやさしく接することが大切であることを理解することができた。		
③ 87パーセントの児童が「学校のきまり・規則を守っている」と答えており、規範意識が高まった。全児童による安全点検を実施したことで、学校内の安全について考える機会となった。		
取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】の進捗状況		
① 年間計画を策定し、計画的に進めることができた。学年の発達段階に沿った人権教育を実施し、人の命の大切さや相手を思いやる心の大切さを学ぶことができた。		
② 月1回児童に関する研修会（児童理解研修会・特別支援教育全体会等）を実施し、共通理解を図り、教職員全体で日々の指導・支援にあたることができた。		
③ 児童集会を縦割り班で活動することで、毎週異学年交流を行っている。また、「遠足」や「なかよし集会」などの学校行事を縦割り班で行うことで、高学年では低学年をいたわる気持ちと責任感が育ち、低学年では上級生に対する尊敬や憧れの気持ちが育ってきた。また、隣接学年との交流をすすめてきたので、お互いに学び合い、理解しあう姿が見られた。		
取組内容②【区分 特別支援教育の充実】の進捗状況		
① なかよし班活動や委員会活動をはじめ、なかよし教室での交流など様々な場面で、交流し合い学び合えるよう場を設定した。掲示板などでなかよし学級の取り組みを公開し、周りの児童も興味深く見ることができた。特別支援を要する児童と他の児童が日常生活の中で自然な形で活動・交流できた。特別支援学級児童が、始業式や終業式での目当てを発表することで、他の児童がなかよし学級で頑張っている姿を意識することができた。		
② 保護者とは連絡帳などで、ほぼ毎日子どもの様子を伝え合うことができている。こども相談センター、子育て支援室、区役所、医療機関など関係諸機関とも連携をとり、場合によってはそれぞれの機関が集まってのケース会議を設けるなど互いに情報交換ができた。		
取組内容③【区分 道徳教育の推進】の進捗状況		
道徳の時間は、一人一人が考えをもち、話し合うことで、道徳心について考えを深めることができた。他教科・領域においても、話し合いやグループ活動を通して、相手のことを思いやる気持ちを高め、互いに助け合おうとする態度を育ててきた。		
① 今年度導入された「わたしたちの道徳」の教材も、年間指導計画に位置づけて見直しを図り、学習指導要領に示されている全ての内容項目の指導を進めてきた。		
② 「親切・思いやり」の項目に関する授業を全学年が公開し、学校での取組を保護者に知らせる機会となった。		

- ③ 「親切・思いやり」週間を年2回実施した。「気持ちカード」を用いて自己をふり返らせ、「みんなのステ木」を掲示することで、親切にすることのよさに気づかせることができた。

取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】の進捗状況

- ① 生活目標についてアンケートを実施し、グラフ化することで学校全体の児童がどのくらいきまりを守れているか把握することができた。またその結果と分析を学級に返し、きまりを守ろうという意識づけを図った。
- ② 月目標や週目標、学級指導など、あらゆる機会を設けて指導した。また、週に一回、自己評価を実施し、児童の規範意識を高めるようにしてきた。全校児童による「校内安全点検」を実施し、学校内での危険箇所・歩行の仕方等について児童自らが考える機会を作ることができた。

取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】の進捗状況

- 「安全（防犯・防災）マニュアル」をさらに見直すとともに、1月に家庭・地域参加型の防犯・防災訓練を消防署・区役所と連携して実施した。その結果、児童を含め、地域全体での防災意識が高まった。
- ① 火災に対する避難訓練（4月）、防犯に対する避難訓練（9月）を実施した。いずれの訓練でも児童は訓練に真剣に取り組み、防災・防犯意識が高まった。また、1月の土曜授業では、避難ビルを設定し、津波を想定した防災訓練を地域・保護者と一緒に実施した。その結果、避難場所を確認することができ、災害が起きた場合の対応方法を理解することができた。
- ② 警察署・セーフティ淀川・地域のボランティアの方々と連携し、防犯教室（9月）・交通安全指導（5月）を実施した。交通安全指導（10月）では、セーフティ淀川・地域のボランティアの方々の協力を得ながら秋の「なかよし遠足」へ向けて歩行訓練を実施した。

次年度への改善点

【視点 道徳心・社会性の育成】の改善点

- ① 子どもたちが活躍できる場をさらに儲けるようにする。〇〇名人を様々な分野で設定し、全員の児童が必ず何か一つ取り組めるようにしていく。できるようになったことをみんなで認め合う場を設け、自分に自信がもてるようにしていく。
- ② 引き続き「親切・思いやり週間」を実施し、「気持ちカード」で自己の振り返りを行うようにする。
- ③ 今後も、月目標、週目標、「十三五か条のきまり」や「生活のきまり」等を機会あるごとに活用し、児童にきまり・規則についての意識を高めるようにする。また、児童による「校内安全点検」をローテーションしながら実施し、それを生かせるような取り組みを行っていく。
看護当番による見回り・確認・指導を丁寧にしていくようにする。

取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】の改善点

- ① 人権教育を教科・道徳の中に位置づけた年間指導計画の見直しを行い、計画的に実施していく。指導材や指導案などを保管し次年度以降の指導に役立てるようにする。
「自分のことが好き」に対して、自分に自信がもてない児童もいる。〇〇名人を様々な分野で設定し、子どもたちの活躍の場をつくっていく。また、みんなの前で発表し、友だちと認め合う事を通して、自分に自信がもてるようにする。
- ③ 縦割り班活動を今後も継続するとともに、他学年との交流の機会を増やしていくようにする。

取組内容②【区分 特別支援教育の充実】の改善点

- ① 特別支援学級に在籍していない、支援を要する児童への対応については、巡回指導、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーターとの連携を深め、アドバイスを参考にして教育を進める。
特別支援教育の研修会などで得たことを、伝達研修を通して職員に伝えていくようにする。

取組内容③【区分 道徳教育の推進】の改善点

- ① 内容項目を学期ごとに点検し、年間指導計画に基づいて全ての内容項目を指導するよう見直しを図る。また、「わたしたちの道徳」の活用の仕方の研修を行う。

- ③ 「親切・思いやり」週間では、「気持ちカード」で自己をふり返るとともに、親切の内容を考え行動できる活動を取り入れる。（例として、一日一善運動など）

取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】の改善点

- ② 校内安全点検の点検場所のローテーションを行い、キャラクター等を使って危険箇所を意識させる期間を設ける。
- ・ 学校のきまりを守るためのユニバーサルデザインを取り入れた環境整備（トイレスリッパ・階段右側通行など）

取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】の改善点

- ② 不審者対応訓練を年2回行うようにする。
- （1回目） 1学期、授業中に行う。
- （2回目） 2学期、休み時間に行う。

大阪市立十三小学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標				達成 状況
<p>【視点 学校・地域の連携】</p> <p>① 学校教育に関わる取り組みへの家庭・地域の参加者数を、年間３００人以上にする。</p> <p style="text-align: center;">２月５日現在（ ６４２ ）人（ガバナンス改革関連）</p> <p>② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を８０％以上にする。</p> <p style="text-align: center;">（保護者アンケートにより検証する） （ ９６ ）％ （ガバナンス改革関連）</p>				A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】 学校行事や教科・領域指導・読み聞かせ・放課後ステップアップ教室・見守り隊活動・交通安全指導・防犯・防災訓練などの取組への家庭・地域の参加を図る。 (ガバナンス改革関連)		A
指標 「地域との活動 年間指導計画」を策定し、取組内容や時期・参加体制等を一覧表にして地域に配布し、ホームページに掲載する。 (A)		
取組内容②【区分 情報発信】 学校だより・学校ホームページを通して情報を発信し、学校の取組に対する情報の共有を推進する。 (ガバナンス改革関連)		A
指標 ① 学校だよりを月1回以上発行し、情報の共有を図る。 (A) ② 情報の共有を図るため、学校ホームページを週1回以上更新する。 (A)		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【視点 学校・地域の連携】年度目標の達成状況

① さまざまな場面で家庭・地域への参加を呼びかけた結果、2月5日現在で目標を上回る642名の参加者数を達成できた。家庭、地域と連携した取組を行うことで、教育の充実を図ることができた。

② 十三小だよりや学年だより、ホームページ等で取組を紹介した結果、96%の方に取組内容が認知されており、目標を大きく上回ることができた。

取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】の進捗状況

・ 「地域との活動 年間指導計画」を策定し、取組内容や時期・参加体制等を一覧表にして地域・保護者に周知した。今年度は、特に企業と連携した出前授業に保護者が参加し共に学んだり、土曜授業（なかよし集会）で地域・保護者の方の「お店」を出店していただくなど、学校行事に積極的な参加を呼びかけた。

取組内容②【区分 情報発信】の進捗状況

① 毎月の学校だよりと、特別号（5月、7月、1月、2月）を発行することで、保護者と学校の情報の共有を図った。

② 学校ホームページを週に1回以上更新することで、ホームページの年間閲覧数が1万アクセスを超え、ほとんどの保護者がホームページに関心を寄せるようになった。更新の際に「はなまる連絡帳」で知らせたり、林間学習、修学旅行、なかよし遠足をリアルタイムで更新したりすることで、さらにアクセス数を伸ばすことができた。

次年度への改善点

【視点 学校・地域の連携】の改善点

- ・ 「はなまる連絡帳」に登録していない人がいるので、全家庭登録をめざし、呼びかけていく。

取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】の改善点

- ・ 今後も各種の取組に多くの家庭・地域の参加を得るために、活動の中身を知ってもらえるように詳しい案内を出す。
- ・ 地域行事、子ども会行事への教職員の参加を推進する。
- ・ 地域の人材が必要な時期を年度当初に整理しておく。

取組内容②【区分 情報発信】の改善点

- ・ 今後も、学校だよりやホームページの感想を求め、さらなる改善をすることで情報発信の質を高めていく。